

ノ腐朽アルヲ示スモノナリ

### ○相州三浦郡横須賀字吾妻山下浚渫工事報告

正員 岸 俊 雄

相州三浦郡横須賀字吾妻山下浚渫工事ハ日本土木會社ノ受負ニテ昨二十年七月初旬着手シテ爾來海陸兩地共同時ニ堀採ヲナスニ陸地ハ普通ノ法方ニテ專ラ人夫ヲ役シ海底ハ全ク器械力ニ據ル其ノ器械タルヤ既ニ工學會ニ報告セシ如クプリストマン攪揚器二具及ヒブルース全壹具ヲ使用ス

プリストマン攪揚器ハ二具共ニB號ニシテ三拾六尺ノモノナリ攪器ドレツキア

ハ半板半齒ヲ供フルモノニテ所謂バケツト、グラブナリ

其ノ一器ハ海軍省ノ器械ニテ既ニ小野濱及ヒ横須賀邊ニ於テ使用セラレタリト見エ旋轉臺稍々摩滅シテ大ニ旋回ノ働キ澁ラシ十分ノ功ヲ奏セサレハ臺船バーザノ一方ニ二條ノ長竿ヲ以テ並行ニ差出シ恰モ蝸牛

攪器  
バケツト

ノ角狀ニ設置シ而シ攪器ニテ適度ノ高サニ攪揚スルキ泥船ノ舟子ハ直チニ長竿ヲ傳ヒ罎竿ノ間ニ泥船ヲ航キ寄セ攪器ノ直下ニ至リ此ヨリ吐出スル處ノ土砂ヲ船腹ニ収ム而シ再ヒ竿ヲ傳ヒ稍々外方ニ避ケ攪器ノ働キニ障害ナラサラシム又更ニ攪上クレハ前條ノ如ク竿ヲ傳ヒ兩竿間ニ至テ土砂ノ吐出ヲ待ツ如斯ル時ハ石炭等ノ物品ハ他ノ回旋シテ以テ吐出セシムルモノニ比スレハ稍々減少スレモ日々攪揚スル處ノ量積ニ至テハ大ニ減却ス此レ則チ他ナラズ回旋ノ時間ト泥船ノ竿ヲ傳テ航來スルノ時間トニ大差ヲ生スレハナリ雖然該器ハ前文ノ如ク旋轉臺ノ摩滅ノ爲メ不得止ニ出テタルモノニシテ敢テ故ラニ迂遠ノ工ヲ施スニ在ラス

一器ハ昨年十二月初旬ニ英國倫動プリストマン商店ヨリ買入レタルモノニテ構造ニ於テハ前器ト大差ナシト雖モ能ク其ノ働キヲ全ス但シ該器ハ商店ニ於テ出來合ノモノニ付價格更ニ廉ナリ横濱着ニテ金

貳千八百六拾圓ナリ

ブルース攪揚器ハ此レ亦同時ニ全處ヨリ金五千〇〇五圓ニテ購入セシモノニテ第五號形ナリ該攪器ハ三葉器ニテ徑五呎容積三拾三立方呎ナリシカ陸揚ノ際少シク破損ヲ生シテ今尙ホ十分ノ試験ヲ遂クル能ハス然レモ日々施用スルニ由リ之カ効用ヲ略記スヘシ

臺船ハ三器共ニ木造ニテ長五十尺幅十九尺深五尺ナリ何レモ品川驛バウチ造船手諸明氏ノ製造ニ掛ル

今時三器ヲ用ヒテ浚渫スルニ日々ノ功用不同ニシテ一定ナラザルハ全ク地質ト海底ノ深淺等ニ據ルモノナルガ風波亦大ニ關係スベシ今一々之ヲ詳ニスルヲ得サレハ單ニ深淺地質等ノ同様ナルモノヲ以テ其ノ成期ヲ示スヲ左ノ如シ

但シ一日働時間拾時間 海底ノ深平均二十尺

地質 微些ノ砂ヲ含ム泥土マット壹尺立方ノ量 略百拾英斤

明治廿一年四月中試檢

器械種類	機關手 水火夫 給料 督役人	石	炭	油類	雜品	修理損失費	小計	拾時間揚坪數	一坪價格
海軍省ノ 器械	壹	五百斤	一圓十一錢五	拾錢九	拾壹錢	五拾錢	三圓四十六錢四	二拾坪六合二	二十六錢七九
會社新調	全	六百斤	一圓三十三錢八	全	全	全	三圓六拾八錢七	二拾九坪七合	十二錢三九三
全ブルース	全	五百斤	一圓十一錢五	全	全	全	三圓四十六錢四	二拾二坪三合	十五錢〇五八

地質土砂ナルキハ平均泥土ノ三割ヲ減ス但シ砂ハ泥斑石ニ含ム處ノ最微ノ硅石様ノモノナレハ擲揚ノ際海水ト共ニ滲出ス仍テ量積ヲ減消ス

右ハ僅ニ三週間ノ平均數ヲ取リシモノナリ且石炭ノ如キハ寒暑ニ由テ大差ヲ醸スニ由リ該表ヲ以テ適度ノ試檢タルヲ証シ難シ諸君之ヲ諒セヨ

明治二十一年五月一日